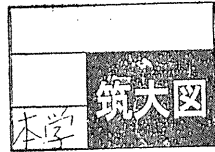


求真

第 22 号



研究論文

- 樋口 達郎 言霊の在り処
一言霊と和歌との関係性をめぐって— …………… 1
- 河合 一樹 『称呼弁正』 「姓尸氏族第四」の問題空間 …………… 11
- 牧野 静 賢治童話における本生譚 …………… 25
- 季平圭太郎 心の理論説批判とメルロ＝ポンティ …………… 37
- 樋口 達郎・河合 一樹・宇賀神秀一
本居宣長『玉勝間』全訳注（一） …………… 49

求真会

2016

求真会規約

一、名称

本会は、田辺記念碑銘「私の希求するところは真実の外にはない」の精神に基づき、「求真会」と称する。

二、目的

あらゆる学問や社会活動を通じて、前項の名称にふさわしく田辺哲学とそれに関連する思想をより深く理解し、広く一般社会に普及し、真実を希求することを目的とする。

三、事業

本会は前項の目的を実現するために次の事業を行う。

- ① 毎年八月後半、田辺哲学への敬意の証として、記念碑の参詣を兼ねた研究会。
- ② 研究会の報告など、年一回の機関誌『求真』の発行。
- ③ 「求真会基金」（以下基金という）の運営。
- ④ その他必要な事業。

四、会員

本会の会員は本会の目的に賛同する人々によって構成する。具体的には、当年度の研究会に参加した者及び基金に一口以上の寄付をした者。

五、役員

本会は次の役員を置き、役員は本会の運営を行う。

代表幹事 一名 理事 若干名

一、代表幹事

代表幹事は本会を代表する世話役であり、任期は後任者が決まるまでとする。

二、理事

理事は本会の全般的な運営に当たり、任期は後任者が決まるまでとする。

三、総会

当該年度の研究会において、活動及び会計報告と活動方針及び予算を審議し、代表幹事及び理事の選出を行う。

四、基金の運営

一口千円以上の寄付金を随時受け入れ、寄付者には寄付金受け入れ年度の『求真』を送付する。

五、『求真』の編集

代表幹事が理事及び役員の見解を汲み入れて編集する。

六、会計年度

毎年一月一日より二月三十一日までとする。

七、事務局

本会の事務局は代表幹事が決定する。

附則

この規則は、二〇〇二年八月二日より施行する。

二〇〇六年八月三日一部改正

二〇〇八年二月二十五日一部改正

求真会の沿革

一九四五年 三月

田辺元先生京都大学を退官される。

同年 七月

田辺先生北軽井沢大学村に転居される。

一九六二年 四月二九日

田辺先生群馬大学医学部付属病院にて逝去される。

一九六三年 六月二日

田辺記念碑除幕式。その碑には

私の希求するところは真実の外にはない

という言葉が刻まれている。またその裏面には、

田辺 元 昭和三七年四月二九日没 七七才

ちよ 昭和二六年九月一七日没 五五才

とある。記念碑は谷口吉郎博士の作。除幕式には谷口吉郎、野

上弥生子、谷口徹三、宮本和吉の各氏、門下生及び石沢要など

群馬大学関係者が多数参列される。田辺先生の遺言で、土地、建物、蔵書（一部は京都大学）が群馬大学に寄贈される。

一九六四年 八月

石沢要先生の発案により、書齋と母屋の山荘二棟のうち、母屋を改修し、この年より毎夏の集中講義の部屋として使用する。

以来、田辺山荘の母屋にて、毎夏、外部の講師を招いての集中講義を行うこととなる。

一九六五年 四月二日

石沢先生を中心にして、田辺文庫目録が完成する。

一九六七年

田辺文庫展示会を開く。石沢要、山田桂三、吉野寛治の諸先生により著書がスライドで解説される。

一九七四年 三月三〇日

田辺山荘の書齋が「田辺記念館」として保存され、母屋は取り壊される。その跡に群馬大学北軽井沢研修所が建てられる。

一九七七年 四月

北軽井沢研修所でシンポジウムを開くため、石沢先生の発案により「群馬大学求真会」がつくられ、七条小次郎先生がその会長となる。

一九七八年 八月二三日〜一五日

田辺哲学シンポジウムを開く。西谷啓治、武内義範、大島康正、中榊齋、野上弥生子の諸先生を招く。

一九七九年 八月一日～三日

「人間をどう考えるか」をテーマとして、シンポジウムを開く。

田中美知太郎、畑敏雄（群馬大学学長）、野上弥生子の諸先生を招く。

一九八〇年 八月八日～一〇日

「田辺哲学と道元」をテーマとして、シンポジウムを開く。齋藤義一先生（大阪大学教授）を講師に迎える。

同年 八月三日～四日

「医学と哲学」をテーマとして、シンポジウムを開く。高山、柳沢、七条、石田の医学及び哲学関係の諸先生を招く。

一九八一年 七月二日～八月一日

西谷宗教学哲学研究会、西谷、大島、武内、野上の諸先生を招く。

（西谷先生が群馬大学北軽井沢研修所の在り方について広報に投稿する）

同年 八月二日～四日

道元『正法眼蔵』研究会を開く。畑先生を招き『正法眼蔵』の講義を聞く。

一九八二年 七月二日～八月二日

「ホイエルバッハと道元」斎藤知正先生を招く。

（田辺先生二〇周年）

一九八三年 八月五日～七日

斎藤知正先生著『道元禅と現代』を中心にして発表を行う。

一九八四年 八月一九日～二日

「ハイデッガーと禅」石沢先生を中心にして発表を行う。

一九八五年 八月四日～六日

「自然」についての学際研究会。藤田お茶の水大学学長、小野群馬大学学長及び半田文穂先生など医学・工学・教養部の諸先生が発表する。

一九八六年 八月四日～六日

哲学研究会を開いて、石沢、斎藤、円増、その他の諸先生の発表を聞く。

同年二月

村岡五郎先生（群馬大学教育学部農学研究室）逝去。

一九八七年 八月

「道元と江渡荻嶺について」をテーマにして、禅研修会を開く。

斎藤先生を中心に高崎参禅会の方々が参加する。

一九八八年 八月一日～三日

哲学研究会を開く。石沢先生が「フォイ・フォイの哲学」とい

うテーマで発表する予定だったが、体調悪く欠席される。

同年 八月三日～五日

禅研修会を開く。斉藤知正先生による『普動坐禅儀』の講義を聞く。

一九八九年 八月

禅研修会を開く。斉藤知正先生による『典座教訓』の講義を聞く。

一九九〇年 八月一六日～一八日

禅研修会を開く。斉藤知正先生を中心にして発表を行う。

一九九一年

中止

同年 一二月一五日

石沢要先生逝去。

一九九二年 八月二四日～二六日

京都大学・藺田坦先生による講演「クザーヌスの自然について」を聞く。その他、発表を行う。

(田辺先生三〇周年忌)

一九九三年 八月二一日～二二日

高橋、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一日

「群馬大学求真会」の事務引き継ぎ（高橋から川島へ）

一九九四年 八月一九日～二二日

京都大学・長谷正當先生による講演「田辺哲学とエマヌエル・レヴィナスの哲学―哲学の立脚点としての存在論と倫理の立場をめぐって―」を聞く。その他、高橋、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一日

「群馬大学求真会」を「求真会」と改名する。

会長―高橋治男、理事―藺田坦、黒田能勝、田中茂、相田麟三郎、榊原憲雄、代表幹事―川島煇三

『求真』創刊号、発刊。

一九九五年 八月一八日～二〇日

第一回求真会を開く。大阪府立大学・川村永子先生による講演「田辺哲学と有機体の哲学―場所の論理を介して―」を聞く。

その他、高橋、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一日

『求真』第二号、発刊。

一九九六年 八月二四日～二六日

第二回求真会を開く。静岡大学・山下秀智先生による講演「言葉と自覚」を聞く。その他、川島による研究発表を行う。

同年 二月一日

『求真』第三号、発刊。

一九九七年 八月二〇日～二二日

第三回求真会を開く。京都大学・藤田正勝先生による講演「言葉とものの見方」を聞く。その他、笠井、高橋、川島による研究発表を行う。

同年 二月一日

『求真』第四号、発刊。

一九九八年 八月一九日～二二日

第四回求真会を開く。大阪外国語大学・細谷昌志先生による講演「最後の田辺哲学―絶筆『マラルメ覚書』について―」を聞く。その他、アニミズムデザイン家・芹沢木黙氏の発表及び花の行者・花塚氏の神通力の実演、川島の研究発表を行う。

同年 二月三日

『求真』第五号、発刊。

一九九九年 八月一八日～二〇日

第五回求真会を開く。金沢大学・氣多雅子先生による講演「布施をめぐって」を聞く。その他、川島の研究発表を行う。

同年 二月二八日

『求真』第六号、発刊。

二〇〇〇年 八月三日～五日

第六回求真会を開く。相愛大学・北野裕通先生による講演「大地・身体・自覚―鈴木大拙の日本的靈性の問題を起点として―」を聞く。その他、水野、浜崎、川島による研究発表を行う。

二〇〇一年 八月三日～四日

第七回求真会を開く。東京理科大学・佐々木亮先生による講演「田辺とハイデッガー―〈存在の比論〉をめぐって―」を聞く。その他、川端、川島による研究発表を行う。

二〇〇二年 二月一〇日

『求真』第八号、発刊。

二〇〇二年 八月二日～三日

第八回求真会を開く。求真会規約及び求真会基金趣意書が成立する。関西大学・小田淑子先生による講演「イスラームにおける個人と共同体」を聞く。その他、宮野、杉本、川島による研究発表を行う。

(田辺先生四〇回忌)

二〇〇二年 一月一日

高橋治男先生逝去。(七二歳)

同年 二月七日

山田桂三先生逝去。(八七歳)

同年 一二月一七日

『求真』第九号、発刊。

二〇〇三年八月二〇日～二二日

第九回求真会を開く。関西大学・井上克人先生による講演「田辺哲学と道元禅―特に『正法眼蔵の哲学私観』をめぐる―」を聞く。その他、川端、塚本、杜、相田、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一七日

『求真』第一〇号、発刊。

二〇〇四年 八月一八日～二〇日

第一〇回求真会を開く。南山大学名誉教授・ヤン・ヴァン・ブラフト先生による講演「キリスト教と仏教」を聞く。その他、塚本、田中、相田、川島による研究発表を行う。

同年 一二月八日

小倉康栄氏逝去。(六七歳)

同年 一二月一七日

『求真』第二一号、発刊。

二〇〇五年 八月一七日～一九日

第一二回求真会を開く。龍谷大学・高田信良先生による講演「グローバル時代の宗教間対話―仏教における〈諸宗教の教学〉

―親鸞のまねび―」を聞く。その他、竹花、守津、相田、田中、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一七日

『求真』第二二号、発刊。

二〇〇六年 七月二日

杜虫然(本名・芹沢栄三、元の雅号・木黙)氏逝去。(五八歳)
同年 八月三日～二五日

第一二回求真会を開く。石川県立看護大学・浅見洋先生による講演「死の自覚をめぐる―ハイデッガー・西田・田辺―」を聞く。その他、川端、相田、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一五日

『求真』第二三号、発刊。

二〇〇七年 八月三日～二四日

第一三回求真会を開く。筑波大学・伊藤益先生による講演「変容される過去―田辺哲学と大島哲学―」を聞く。その他、廖、吉田、相田、川島による研究発表を行う。

同年 一二月一七日

『求真』第一四号、発刊。

(以上は『求真』第一四号から収録したものである)

二〇〇八年 三月

求真会事務局が筑波大学に移る。代表幹事が、伊藤益に委任される。

同年 八月二十五日～二十六日

第一四回求真会を開く。廖、馬場、杉本、高木による研究発表を行う。

同年 一二月

『求真』第一五号、発刊。

二〇〇九年 八月二〇日～二二日

第一五回求真会を開く。関西大学・井上克人先生による講演

「Deus Quatenus の哲学―石沢要先生のスピノザ論と田辺哲学の接点―」を聞く。その他、高木、杉本、城阪による研究発表を行う。

同年 一二月

『求真』第一六号、発刊。

二〇一〇年 八月二十五日～二十六日

第一六回求真会を開く。沼沢、廖による研究発表を行う。

同年 一二月

『求真』第一七号、発刊。

二〇一一年 九月一〇日

京都大学にて第一七回求真会を開く。京都大学・福谷茂先生に

よる講演「田邊とカント―『種の論理と世界図式』を中心に―」を聞く。その他、高木、日高、蓮沼による研究発表を行う。

同年 一二月

『求真』第一八号、発刊。

二〇一二年 八月三日～四日

第一八回求真会を開く。京都大学・藤田正勝先生による講演

「田辺元の生涯と思想―田辺元先生没後五〇年を記念して―」を開く。その他、川井による研究発表を行う。

同年 一二月

『求真』第一九号、発刊。

二〇一五年 三月

『求真』第二〇号、発刊。

二〇一六年 三月

『求真』第二二号、発刊。

二〇一七年 三月

『求真』第二三号、発刊。

『求真』論文投稿規定

一、論文のテーマは田辺哲学を含む哲学・思想全般に関するものとする。ただし未発表のものに限る。

二、使用言語は日本語とする。

一、論文を投稿する際は次の書式に従うこと。A5版用紙に縦書き三段組みとする。各段は三〇字×二〇行（一頁二二〇〇字）とし、註は本文末に一括する。以上の書式で一五頁程度とする（書評の場合は一〇頁程度）。

二、提出様式

電子メールにてWordファイルを添付した電子メールを、求真会事務局宛（下記メールアドレス）に送ること。

また欧文タイトルと投稿者のローマ字表記および所属・職業を明記した別ファイルを添付すること。

一、応募締切

締切は当年度の一二月一五日とする。

求真会役員（五〇音順）

代表幹事

伊藤 益

理事

相田 麟二郎

川島 炫三

黒田 能勝

高木 哲也

田中 茂

藤田 正勝

村上 隆夫

求真 第二号

二〇一七年三月発行

〔郵便番号〕 305-8771 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学大学院人文社会科学学研究所

哲学・思想専攻 伊藤益研究室

Kyushinkak001@yahoo.co.jp

〔編集・発行者〕 求真会

振替先 伊藤益 記号 10670 番号 8009111

Kyushin

No.22

Articles

- Tatsuro HIGUCHI : What Is Kotodama Dwelling?
– A Study on Relationship between Kotodama and Waka –………… 1
- Kazuki KAWAI : The Problems of Rusu Tomonobu “Shokobensei”………… 11
- Shizuka MAKINO : Jātaka Tales in Kenji’s Literary Works …………… 25
- Keitaro SUEHIRA : Merleau-Ponty and *theory theory* of mind …………… 37

Translation and Notes

- Tatsuro HIGUCHI / Kazuki KAWAI / Shuichi UGAJIN :
Translation with Notes of Motoori Norinaga “Tamakatsuma”………… 49

Published by

Kyushin-kai

2016